

令和7年度第3回山形県特定鳥獣保護管理検討委員会 発言趣旨

1 日時 令和8年2月3日(火) 13時30分～16時

2 開催方法 オンライン (Teams)

3 委員 (敬称略)

鈴木正嗣 (岐阜大学)、江成広斗 (山形大学)、山内貴義 (岩手大学)、藤本竜輔 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)、丸山哲也 (栃木県林業センター研究部森林チーム)、遠藤春男 (山形県猟友会)、片桐弘一 (山形県獣医師会)、佐藤寧 (山形県農業協同組合中央会)、清野一男 (山形市)、野口勝世 (最上町)、富取千代子 (米沢市)、小野寺レイナ (鶴岡市、斎藤秀一郎の代理)、木内真一 (山形県みどり自然課)、下山智弘 (山形県農村計画課、杉山裕秀の代理)

4 発言趣旨

(1) 第3期山形県イノシシ管理計画(案)について(協議)

(事務局)

説明

計画策定の目的について

(丸山委員)

- P2 計画策定の目的にある「行動域」の文言が分かりづらい。より分かりやすい表現にすべき。

(事務局)

- 行動域の解説をP26に記載している。

(江成委員)

- 計画策定の目的については、用語の解説がないと内容が理解できない記載は好ましくない。丸山委員と同様に「行動域を適正な範囲に抑制し」という表現を避けゾーニングなど分かりやすい表現にすべき。

(事務局)

- 計画策定の目的は重要な部分であるため、誤解を招かないよう表現を修正する。

指定管理鳥獣捕獲事業と個体数調整について

(丸山委員)

- P18 指定管理鳥獣捕獲事業の説明の中に「個体数調整」との文言があるが、個体数調整は許可捕獲の一部であり、ニュアンスが異なるため分けて書く必要がある。P21の表にも同様に「個体数調整」の文言があるので誤解が生まれぬよう修正が必要ではないか。

(事務局)

- 修正する。

自然環境への影響について

(江成委員)

- ・自然環境への影響について、本計画への記載を踏まえ、これまでの対応と具体的にどのようなようになるのか。

(事務局)

- ・現状は、山形大学の横山教授に委託している希少植生に関する報告書において、イノシシによる希少植生への被害を把握しているのみである。今後5年間では環境科学研究センターと連携し、被害状況の把握を進め、湿地等の保全優先度を設定及び見える化していく。そして、関係機関と情報共有することで、必要に応じて速やかな保全活動を実施するための体制整備を進めていく。

なお、保全対応については現時点で具体的な案はないため、今後議論していく必要があると考えている。

(2) 第4期山形県ツキノワグマ管理計画について (報告)

(事務局)

説明

生息状況調査について

(藤本委員)

- ・生息調査を継続して行うとのことだが、撮影範囲や高さが統一されていないように見え、撮影頻度にも影響するのではないかと。長期的なトレンドを追う調査であれば、地点・方向・設置木の固定など、条件を変えずに行う必要がある。カメラ台数の変動もトレンド把握に影響するため注意が必要。

(江成委員)

- ・長期調査を行うなら、調査業者に設置場所の詳細記録を義務付けるべき。木のナンバリングなど、条件を変えない工夫も必要。

(事務局)

- ・トレンド把握のためにも、来年度は条件を変更せず調査を行うようにしたい。

(遠藤委員)

- ・現在のカメラ台数では県全体の把握は難しいのではないかと。月山・朝日飯豊ユニットで飯豊地域が十分調査できていないのでは。そのため県全体ではなく、地区ごとに集中的に調査する方法も良いのではないかと。

(事務局)

- ・来年度の事業の中で検討したい。

(鶴岡市)

- ・生息状況調査は今後も同じ場所で行うのか。

(事務局)

- ・基本的に今年度と同様の地点での調査を考えている。

指定管理鳥獣(ツキノワグマ)捕獲等事業について

(藤本委員)

- ・春季に銃猟で捕獲圧をかけることは良いこと。

(鶴岡市)

- ・春季捕獲で箱わなを使うとのことだが、誘因となりゾーニングに反する恐れがあるのではないかと。

(鈴木委員)

- 春季捕獲で箱わなの実績がないなら、捕獲場所などの記録を詳細に残すべきだ。

(事務局)

- 捕獲頭数の確保・春の出没抑制のため箱わな捕獲も検討。ただし、基本は銃猟を主として考えている。

(丸山委員)

- 指定管理鳥獣捕獲事業（春季捕獲）は環境省の事業で実施するのか。繰越は、環境省として問題ないか。

(事務局)

- 環境省の事業として行い、繰越は問題ない。

捕獲頭数の分析について

(江成委員)

- 非常に多くを捕獲した今年度の状況を詳細に分析すべき。数値だけでなく「どこで・どれだけ・どんな方法」で捕獲されたかまで精査が必要。また、集落周辺での捕獲が、情報の不確実性がある中では最善の策である。その上で奥山での捕獲の必要性について検討すべきだ。

(事務局)

- 情報を取りまとめてお示ししたい。